

Prodrome-CRC/PAC検査報告書改訂のご案内

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、「Prodrome-CRC（大腸がんリスク検査）」「Prodrome-PAC（すい臓がんリスク検査）」におきまして、測定委託先より報告書の仕様が一部変更となる旨の連絡がありましたので、ご案内申し上げます。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

■実施日 2022年 4月 1日（金）測定委託先発行分より

● 報告書の主な変更点

- 表紙
 - ・ 受診者情報の表記箇所を左上に変更
 - ・ 企業情報や受付番号等が記載できるよう下段へ備考欄を追加
 - ・ 検査の概要説明を追加
- 中面
 - ・ 色合いを検査毎のイメージカラーに合わせて変更
 - ・ 生活習慣や検査の画像イラストを刷新
- 裏表紙
 - ・ フォント・デザインを変更

※変更はデザインのみとなり、基準値やコメントの変更はございません。

報告書サンプルは別紙をご参照ください。

ご不明な点等ございましたら貴院担当もしくは当社インフォメーションまでお申し付けください。

別紙2: 報告書イメージ (Prodrome-PAC)

< 外面 >

● Prodrome-PACについて ●

検査概要

本検査では6種類の長鎖脂肪酸*1 (以下PCファミリーと記載) の血中濃度を測定しています。これは健康な状態からすい臓がんになる病態で減少すると考えられています。人体では、慢性的に過剰な状態が生じたり、古くなった細胞が蓄積することでがんができていくと考えられていますが、PCファミリーはこれを抑制することでがんが発生することを防ぐ働きがあると考えられています。そのため、PCファミリーの減少は、すい臓がんの発症リスクを高める可能性があると考えられています。

*1 長鎖脂肪酸: 細胞を構成する物質で、その機能や形状を正しく保つ働きがあります。

結果判定

PCファミリーが非常に少ない場合は高リスク、やや少ない場合は中リスク、十分に存在する場合は低リスクと判定します。
中リスクの場合、低リスクに比べてがんが見つかる可能性が20倍高くなります。
高リスクの場合では、同様に100倍以上高くなります。*

*2 55-59才 男性の場合: 中リスク/低リスク=22倍、高リスク/低リスク=166倍

受診後の対応

生活習慣を見直してリスクの軽減を努めるとともに、定期的な受診をおすすめします。また、必要に応じて、精密検査を受けることをおすすめします。



すい臓がんリスク検査報告書

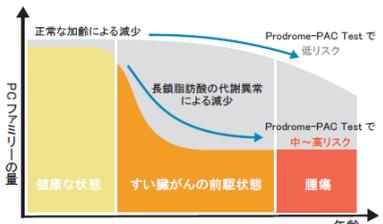
Prodrome-PAC

プロドROMEピーエーシー

Prodrome-PACはすい臓がんの発症リスクを評価する検査です。
すい臓がん患者の血中で特異的に減少する6種類の長鎖脂肪酸“PCファミリー”を測定し、すい臓がんの発症リスクを3段階で判定いたします。

管理会社ユニークコード: yyyyyymmddXXXXXXXXX 営業所番号: XXXXX 施設管理コード: XXXXXX.XX

Pre Medica



[検査受託] PRODROME SCIENCES Inc.
[測定・解析] 株式会社プリメディア 検査責任者: 飯沢 洋

< 中面 >

Prodrome-PAC すい臓がんリスク検査報告書

氏名 サンプル タロウ 様	性別 男性	年齢 47歳
受診日 2021/4/1	カルテID 123456789	

すい臓がんリスク判定結果

Prodrome-PACの結果、長鎖脂肪酸の値は、レベル82と正常ですい臓がんのリスクは **低リスク** と判定されました。

総合評価コメント

今回検査結果では長鎖脂肪酸の値は正常域で、すい臓がんのリスクは低い状態であると判定されました。
しかし、油断は禁物です。すい臓がんは症状に気づきにくいがんともいわれています。今後も定期的に検査を受診し、すい臓がんの早期発見・予防に努めましょう。また、食生活、喫煙、飲酒などの生活習慣の乱れにも注意しましょう。

検査受診後について

低リスク
レベル: 26-100

リスク因子を避けて、健康的な生活習慣を心がけましょう。また、リスク管理のためがん検診や本検査の継続的な受診をおすすめします。
※1〜2年に1度程度

中リスク
レベル: 11-25

喫煙習慣や肥満といったリスク因子をお持ちの方は、生活習慣を見直し、健康的な生活習慣を心がけましょう。また、リスク管理のためがん検診や本検査の定期的な受診をおすすめします。
※1年に1度程度

高リスク
レベル: 0-10

医療機関ともご相談の上、専門医の受診をご検討ください。必要に応じて、すい臓の精密検査(右ページ参照)の実施も推奨します。

※他検査の結果も踏まえ、必要に応じて専門医の受診や精密検査の受診をおすすめします。

Prodrome-PACで低・中リスク判定だった方に・・・

すい臓がん発症の危険性を増加させるリスク因子がいくつか報告されています。予防の第一歩として生活習慣の改善を心がけましょう。

☑ 糖尿病

すい臓がん患者の罹患率をみると、糖尿病が25%以上と最も頻度が高くなっています。そのため、糖尿病はすい臓がんのリスク因子の一つと考えられています。

☑ 喫煙

喫煙はすい臓がんの発症危険度を2〜3倍に増加させることが報告されています。また、動脈硬化やその他のがんのリスク因子としても考えられています。

☑ アルコール

アルコールを1日2杯以上摂取する方は、すい臓がんのリスクが高かったことが報告されています。
*日本酒175cc相当
1杯=エタノール12.5g

☑ 肥満

肥満はすい臓がんのリスクを増加させることが報告されています。
BMI(肥満指数)が25以上の方では、それ以下の人に加えてすい臓がん発症するリスクが2倍ほど高まるとされています。

※本報告は、国立がん研究センターがん発生学サービス 科学的に導くすい臓がん・予防検診のすい臓がん予防ガイドラインに基づいて行われた研究です。

Prodrome-PACで高リスク判定だった方に・・・

すい臓がんは自覚症状が少なく知られていません。本検査で高リスク判定だった方には必要に応じて専門外来の受診や精密検査の実施をおすすめします。(下記は実施例です。)

☑ 超音波内視鏡

超音波装置を先端につけた内視鏡を用いて行う検査です。体表からの腹部超音波検査とは違い、肝臓となる部位に近い位置で検査を行うことが可能です。

☑ CT検査

X線コンピュータを使用し、すい臓の断面を撮影する検査です。病変の大きさや位置、広がり等を精密に観察できます。

☑ MRI (MRCP)

強力な磁気を用いて、数層写真撮影する検査です。MRCP(MR胆膵管造影)では、すい臓の中を通る「胆管」や「膵管」を造影剤を中心に検査することが可能です。